



ミツカワ
代表取締役社長 **松本茂登**
1980年のミツカワ入社当初から開発全般を担当。ニットテキスタイル分野では業界初となる技術・製品開発を数多く手がけ、2003年にロールプランターの開発を開始した。2014年6月、代表取締役社長に就任。



インド・タミルナドゥ州の農家に設けたロールプランター試験区の成長途中経過

農場にロールプランターを設置し、そこに苗を定植する。ロールプランターは土を詰めた筒状の繊維で、劣悪な土壌環境でも作物を栽培することができる



PROJECT REPORT

ODAを活用した中小企業海外展開支援

インドの農業振興に貢献する

繊維でできたプランター

2015年度のJICAの中小企業海外展開支援事業に、ミツカワ株式会社(福井県越前市)が提案した「ロールプランターの活用による南インド乾燥地域での農作物の生産拡大に向けた案件化調査」が採択された。これは、同社オリジナルの「繊維製プランター」を使い、乾燥地での農業振興に貢献しようというものである。

ソーセージにヒントを得て ロールプランターを開発

インド南部、タミルナドゥ州内陸部のコインバトールは、インド国内でもっとも乾燥した地域のひとつで、土地の劣化が進み、農業不振が貧困の拡大を招いている。2015年、同地の農業改革のため、JICAの案件化調査で試験導入されたのが、ミツカワ株式会社が開発したロールプランターだ。

この製品は2003年に開発に着手したもので、繊維を直径10センチほどの筒状に編み込み、中に土を詰め込んだものである。開発を担当したのは松本茂登社長。着想のもとになったのはソーセージで、ケーシング(表皮)に肉を充填するソーセージの製法そのまま

まに、繊維でつくった筒の中に土を入れ、プランターとしての役目を果たすようにしたのである。

ロールプランターを敷き詰めれば、コンクリートの上でも植物を栽培することが可能になる。素材には、東レ株式会社のPLA(ポリ乳酸繊維)を採用。植物由来のPLAは5~10年かけて水と二酸化炭素に分解される。紫外線にも強く、農地での使用に適した素材といえる。

10年以上にわたる 海外展開の経験

同社の海外展開の歴史は2004年、砂漠移動防止技術の実証テストを、中国内モンゴル自治区で行ったこ

とにさかのぼる。以来、世界各地の乾燥地域で緑化や農地化にたずさわり、2012~13年には経済産業省の「途上国における適応対策への我が国企業の貢献可視化に向けた実現可能性調査事業」に応募。素材メーカーの東レ株式会社、灌水技術開発を行うネタフイムジャパン株式会社と共同で応募した「砂漠・荒地地の農地化・緑化推進」が採択され、南アフリカの鉱山における掘削土の飛散防止や緑化、荒地地での農作物栽培に関し、一定の成果をあげることができた。

この事業を通じて関係したコンサルテイング企業から、インドでも乾燥地域の農業振興が課題になっていることを聞かされた。同社ではさっそく、インドのタミルナドゥ州立農業大学のウォーターテクノロジーセンターに「ロールプランター」の技術を提案。大いに関心を示されたことを受け、JICAの2015年度案件化調査に応募したのである。

ロールプランターで収量2倍増 農業技術の展示会でも大反響

今回の案件化調査では、タミルナドゥ州立農業大学と提携し、大学内の農場や農家の畑でロールプランターによる栽培試験を行った。現地の土壌は水はけの悪い粘土質であることから農業

生産が伸び悩んでいるのだが、栽培試験の結果、ロールプランターを使うことで生産性があがることが証明された。具体的には、ロールプランターを使った試験区のほうが、通常の区画に比べ、カリフラワーの収量が2倍以上になったのである。

ロールプランターは、わずかな土壌でも効果があげられるため、同社では今後もその有用性をPRしていく方針だ。その広報活動の一環として、今年7月には、農業技術に関するインド有数の展示会Agri Intex 2016に出展している。同社のブースには予想をはるかに上回る1500人以上が来場。ロールプランターの技術や、これを応用したキッチンガーデン、ルーフトップガーデンのニーズを確認できた。今後は案件化調査の結果をまとめながら、新たな展開を模索していくつもりだ。



収穫されたカリフラワー



今年7月にタミルナドゥ州で行われたAgri Intex 2016のミツカワのブース。4日間で1500人以上が来場した

独立行政法人 国際協力機構 北陸支部 (JICA 北陸)



JICA 北陸
支部長 **仁田知樹**
北陸3県(福井、石川、富山)の中小企業の皆様へ～北陸の優れた技術や製品を是非途上国に! 皆様の海外展開をJICAが支援します。お問合せ・ご相談をお待ちしています～

北陸新幹線の開業以来、多国籍の外国人を含むたくさんの方たちの往来で活気あふれる街・金沢。その金沢に事務所を置くJICA北陸支部は、福井、石川、富山の北陸3県を担当して、地域と途上国を結び様々な事業を展開しています。

ここ北陸には、特徴ある製品や技術・ノウハウを誇る企業が多く存在しますが、JICAが2012年に開始した中小企業の海外展開支援事業では、これまで3県の19社を対象に11か国26件のプロジェクトを実施してまいりました。支援した事業の分野は、環境配慮型自動車リサイクル、だし調味料新製品開発、農村での小水力発電、都市ごみ焼却・埋立地再生、乾燥地での農産物生産拡

大など多岐にわたりますが、いずれも企業独自の優れた製品や技術を途上国の開発課題解決に役立てようとする野心的な案件ばかりです。

JICA北陸では、海外展開を目指す企業の皆様の熱い想いを形にすべく、今後もこの北陸で本事業の一層の実施に努めてまいります。企業の皆様からのご相談やお問い合わせをお待ちしています!

所在地: 石川県金沢市本町1-5-2リファーレ(オフィス棟)4F
TEL: 076-233-5931
URL: <http://www.jica.go.jp/hokuriku/>